

2. 英語英米文学科履修上の必要事項

専門ゼミナール

専門ゼミナールA・B・C

- (1) 専門ゼミナールA・B・Cは3年次前期(2単位)、後期(2単位)及び4年次前期(2単位)配当の必修科目です。
- (2) 人数は1ゼミナール10人程度とします。
- (3) 専門ゼミナールA・B・Cの登録要件は、2年次終了時52単位以上修得していることを目安とします。
- (4) 専門ゼミナールの登録は2年次後期に実施します。

専門ゼミナールD

- (1) 専門ゼミナールDは4年次後期(2単位)配当の選択科目です。
- (2) 原則として専門ゼミナールCの担当教員が指導します。
- (3) 評価は指導教員1名で行います。
- (4) 履修条件は下記の通りとします。
 - ・3年次終了時点で80単位以上修得していること。
 - ・外国語8単位のうち4単位を修得していること。
- (5) 研究テーマについて、卒業レポートを仕上げます。字数は4000字～8000字(英文の場合1500語～3000語)を目安に指導教員が指定します。
- (6) 「卒業論文」と「専門ゼミナールD」の同時履修は原則できません。
- (7) 履修届(正式なテーマおよび指導教員の承認印が必要)を4年次の決められた期日までに教育支援課へ提出することで履修が確定します。

卒業論文

卒業論文は下記の要領によって行ないます。

(1) 単位数

卒業論文は選択科目で6単位とします。

(2) 作成条件

作成するにあたっての条件は下記の通りとします。

- ・3年次終了時点で80単位以上修得していること。
- ・外国語8単位のうち4単位を修得していること。

(3) 手続

4年次において履修届とともに卒業論文履修(登録)届(正式なテーマおよび指導教員の承認印が必要)を教育支援課に提出してください。

(4) 指導体制

指導は原則として専門ゼミナールの担当教員が行ないます。

(5) 提出期限

4年次の12月の指定された期日までに所定の会場（後日指示）へ提出してください。なお、この時刻に遅れた者の卒業論文は、いかなる理由があっても受けとりません（指導教員に直接渡しても無効となります）。また、原則として本人が自ら提出するものとします。

(6) 様式

- ◆ 表紙にはテーマ、指導教員名、提出者氏名、提出年月日を記入してください。なお、クロス表紙、黒ひも、表紙に貼るラベル等は生協でセット販売します。
- ◆ 論文の執筆は、ペン又はボールペンを用いてください。尚、パソコンの使用も可とします。
- ◆ 論文には目次を付し、頁数を必ず記入してください。

(7) 評価

評価は主査と副査の2名で行います。

(8) 卒業報告集

卒業報告集は、卒業論文又は専門ゼミナールの研究テーマの内容を要約したものを掲載する。原稿については、期限までに全員提出すること。詳細は後日ゼミナールCの時間に担当教員から連絡するので留意ください。

(9) その他

- ◆ 複数で書く場合には2～3人以内とし、執筆分担を明記してください。
- ◆ 枚数は、英文の場合ダブルスペース（1行おき）で20枚以上、和文の場合は、400字詰め原稿用紙換算で30枚以上です。
- ◆ 過年度に「卒業論文」を履修した者のうち、論文を提出しなかった者あるいは論文を提出したが、単位を修得できなかった者については、指導教員の許可を得た場合に限り、前期に論文を提出することができます。本年度の提出締め切りは2024年8月19日（月）窓口終了時刻とします。

再試験制度

人文学部（人間科学科・英語英米文学科）では、卒業年次生を対象に再試験を実施します。

再試験は、**卒業学年において最終評価がDでかつ得点が40点以上で不合格**となった人文学部専門科目（他学部授業科目で単位を修得した場合に専門科目として単位が認定される科目は除く）に対して行う試験で、次の要領で実施します。

(1) 対象者（以下の要件をすべて満たす者）

- ①卒業年次生のみが対象となります（**前期は、再試験を受験して合格することで前期末卒業が可能となる学生に限ります。**）
- ②卒業に必要な修得単位数を、4単位以内で満たすことができる者が対象となります。
- ③再試験受験にあたって、当該科目担当教員の指示に従わなければなりません。

(2) 対象科目

再試験の対象科目は、当該卒業年次に履修登録し、最終評価がDでかつ得点が40点以上で不合格になった人文学部専門科目で、卒業に必要な修得単位数の不足単位（4単位以内）分とします。

卒業年次の年度の専門科目のうち、再試験を実施する科目は、ガイダンス資料で発表するので確認してください。

なお、人文学部他学科の専門科目については、開講学科において再試験対象科目と定められた科目に限り再試験対象とします。対象となる科目は各学科の新年度のガイダンス資料を参照してください。

(3) 評価

再試験の成績評価は所定の基準により、C（可）またはD（不可）とします。

(4) 受験料

再試験を受験する者は、指定された期間に再試験料（1科目につき1,000円）を添えて所定の手続きをしなければなりません。

(5) その他

- ①再試験に対する追試験は実施しません。
- ②非常勤講師が担当する講義の再試験は実施しません。
- ③再試験受験対象科目は人文学部より指定します。
- ④後期に再試験を実施する場合、前期科目は対象外とします。

半期海外留学制度

英語英米文学科では、2年生後期に半期海外留学プログラムを実施します。留学先は、本学の提携大学であるカリフォルニア大学デーヴィス校（アメリカ）、エクセター大学（イギリス）から選択できます。

留学期間は約4～5ヵ月間で、在学期間に算入されます。留学期間中に修得した単位は、24単位を上限として認定され、4年間で卒業することが可能です。ただし、参加人数によっては実施しない場合もあります。

アメリカ留学

・カリフォルニア大学デーヴィス校 (University of California, Davis)

<https://www.ucdavis.edu>

歴史を誇るカリフォルニア大学デーヴィス校 (UCD) は、アメリカ西海岸サンフランシスコから車で1時間の田園地帯にあり、全米一の広大なキャンパスを持ちます。留学プログラムは、英語コミュニケーション理論に裏打ちされた講義と実践、ホームステイの生活体験を通じて国際理解の増進を目的としたもので、UC Davis エクステンションによる英語集中講座、コミュニケーション論、スピーチ・メイキングなどから構成されます。

留学期間は、9月下旬～2月下旬を予定しています。

イギリス留学

・エクセター大学 (University of Exeter) <https://www.exeter.ac.uk>

エクセター大学はイギリス南西部（ロンドンより列車で2時間半～3時間程度）に位置し、イギリスで最も人気のある大学の一つで、質の高い教育と国内で最も美しいと自他共に認めるキャンパスでの生活を提供しています。留学中はホームステイにてイギリス文化・社会について

て理解を深めます。講義内容は、エクセター大学英語語学センターによる留学生のための英語集中講座を受講し、広範囲に渡る英語技能を養成するとともにイギリスの歴史や文化について学びます。

留学期間は、9月下旬～12月中旬を予定しています。

◆応募資格：

本学に1年以上在学した者で、1年次終了時に36単位修得（見込みを含む）した者。
また、前年度に取得したTOEICまたはTOEIC-IPのスコアが380以上であること。
エクセター大学を希望する場合はTOEICまたはTOEIC-IPのスコアが400以上であることが望ましい。

◆留学修了者の単位認定：

本人からの「単位認定願」と留学先大学が発行する成績証明書に基づき、審査の上、**24単位を上限として認定**します。認定できる単位は、次表のとおりです。

認定科目名	教養科目	専門科目	備考
英語IV A	1単位		
英語IV B	1単位		
英文講読D		2単位	
英語圏の社会 A		2単位	
英語圏の社会 B		2単位	
英語コミュニケーション論A		2単位	
英語コミュニケーション論B		2単位	
Business English A		2単位	
Business English B		2単位	
Speech Making A		2単位	
Speech Making B		2単位	
English Writing C		2単位	
Oral Communication D		2単位	
留学・観光英語 B		2単位	
合計	2単位	24単位	24単位上限

(1) 履修登録

- ①前期に履修出来る単位数は24単位までとします。必ず「留学・観光英語A」を履修してください。
- ②前項「留学修了者の単位認定」の表に記載されている科目は、留学先で授業を受け帰国後単位認定するので履修登録の必要はありません。
本学で前期に開講されていても履修登録はしないようにしてください。

(2) 留学費用

下記の留学費用が必要です。

- ①留学先大学の授業料
- ②ホームステイ費用
- ③渡航費、海外傷害保険、その他個人的費用

(3) 奨学金制度

留学者にはひとり20万円～40万円の奨学金を給付する制度があります。

学業成績や留学の動機、語学力などを総合的に審査して奨学生を選考します。申し込みにあたっては、TOEICまたはTOEIC-IPのスコアが380以上であることが必要です。受験にあたっては、十分な準備をして臨んでください。

短期海外研修 ー留学・観光英語 A・B についてー

「X. 外国留学制度と短期海外研修について」を参照してください。

再履修について

過年度に履修し単位を認定された授業科目を再履修することはできません。